

法学部講演会

法学部講演会を下記のように開催します。講師の折田正樹先生は、駐英大使、駐デンマーク大使を務められ、その後、本学法学部に6年間、教授として在職されました。

折田先生は、講演のなかで、まず国際情勢の現状を見た上で、それがこれまでどのような傾向で動いてきたか、今後はどのような国際社会の枠組みを構築して行くべきかを概観します。次いで、国家のパワーについて考えるとともに、日本は国際社会の中でどのような位置にあり、どのような役割を果たすべきか、日本人が国際問題をどのように認識しているかなどについて述べます。その上で、個人がどのような心構えで国際的な事柄に臨んだらよいのか、グローバル人材を目指すには、どのようなことを身に着けたら良いのかについてお話しします。

「国際政治の厳しい現場に身を置き経験をした者として、将来を目指す若者の参考になることをお話ししたい」と先生はおっしゃっています。ふるってご参加ください。

- ◆講演者： 折田正樹 (おりたまさき) 氏
- ◆題目：「国際社会の中の日本」(グローバル人材を目指せ)
- ◆日時：2018年11月7日 水曜日 2限 11:00 ~
※予約不要 (どなたでもご参加いただけます)
- ◆場所：多摩キャンパス 8207 教室

折田 正樹 氏 略歴

折田正樹 (おりた まさき) 氏略歴および主要著書・論文

略歴

1942年 東京生まれ。
1965年 東京大学法学部卒業、外務省入省
1981年 条約局条約課長
1994年 条約局長
1995年 北米局長
1997年 在デンマーク王国特命全権大使
2001年 在連合王国特命全権大使
2004年 外務省退官
2007年 中央大学法学部教授
2013年 同定年退職
2017年 瑞宝重光賞受賞
現在、公益財団法人 安達峰一郎記念財団理事 (2008年～)、
一般財団法人 世界政経調査会 国際情勢研究所所長 (2012年～)、
中央大学評議員 (2015年～) など要職を務める。



主要著書・論文

服部龍二・白鳥潤一郎編『外交証言録—湾岸戦争・普天間問題・イラク問題』、岩波書店、2013年
"Practice in Japan Concerning the Conclusion of Treaties" The Japanese Annual of International Law, No. 27, 1984.
「ユネスコ『文化多様性条約』をめぐる法的論点についての考察」『ジュリスト』、1321号、2006年
「武力行使に関する国連の法的枠組みの有効性—対アフガニスタン軍事作戦とイラク戦争の場合」『外務省調査月報』、2006年3号
「湾岸危機・戦争(1990-91)と日本の対応」『法学新報 柳井俊二先生古稀記念論文集』、116巻3・4号、2009年
「日米安保条約の事前協議と核持込みに関する『密約』問題」『人類の道しるべとしての国際法 横田洋三先生古稀記念論文集』、国際書院、2011年
ほか多数。